



駅弁を買いにたくさんの人でにぎわう物産ギャラリーグリーンゲイト広場



舞鶴城公園までの険しい階段を登っていきました

津奈木レール&フットパス 津奈木を歩いて楽しむ

第1回津奈木ふれあい駅弁大会
箱を開けると広がる
ふるさとの香り

津奈木ふれあい駅弁大会が、11月14日(土)に、なぎ物産ギャラリーグリーンゲイト広場で行われました。会場には津奈木町の海の幸、山の幸を生かした「駅弁」が勢ぞろい。来場者は本町に伝わる「津奈木三めし(海老めし、鯛めし、鶏めし)」をはじめ、町内外の飲食店4店の弁当をテイクアウト(持ち帰り)で楽しめました。

毎年11月につなぎふれあい祭りで三めしを提供していましたが、こころは新型コロナウイルス感染防止のため中止。代わりに、弁当で地元の食の魅力を味わってもらおうと、初めて企画しました。

販売開始30分前から会場



1

で長蛇の列ができ、最初に用意していた約400食の弁当がすぐに売り切れる盛況ぶり。来場者は「つなぎふれあい祭りで毎年買っていたので、これから食べるのが楽しみです」と笑顔で話していました。



2 3



【写真説明】

1 素早い手つきでおかずを詰めていくつなぎスローフードの皆さん／2 折り詰めや掛け紙もこだわり、高級感のある駅弁に／3 人気駅弁の津奈木三めし(左から鶏、海老、鯛)



コース途中にあるイチョウにカメラを向ける参加者



歩き切った後の駅弁は格別のおいしさ

肥薩おれんじ鉄道の全線運転再開を記念し、同鉄道を利用したフットパスが11月14日(土)、つなぎ物産ギャラリーグリーンゲイトで開かれ、約30人が津奈木町を歩いて楽しみました。

フットパスとは、イギリスで発祥した、農村や街並みなどその地域のありのままの風景を歩いて楽しむもの。近年日本でも愛好家が増え、歩くことで見えてくる地域ならではの風景や、それを守ってきた地元の人との温かい触れ合いが魅力です。

コースは同会場をスタート、ゴールとする約6キロ。津

奈木駅までは鉄道の車窓から見える景色を楽しむ、コースでは舞鶴城公園や達伝など、町の風景を散策しながらゴールを目指しました。案内人は石田恒義さん(桜戸)、山本和美さん(古中尾)が務め、参加者に町のスポットや歴史などを分かりやすく教えていました。昼食は同日開催の津奈木ふれあい駅弁大会で作られた、海老めし・鯛めし・鶏めしから選べる駅弁に舌鼓を打ちました。参加者は「天気に恵まれ、素晴らしい景色だった。駅弁がとてもおいしかった」と笑顔で話していました。